援協SUS病院が完成

「医療の拠点」に喜びの声

サンミゲル・アルカンジョで開所式

サンパウロ日伯援護協会（菊地義治会長）傘下で初となるSUS（統一医療保健システム）に対応した病院、「Beneficêcia Nipo-Brasileira de São Paulo Hospital São Miguel Arcanjo」がサンパウロ州サンミゲル・アルカンジョ市内に完成し、その開所式が10日午前11時から同病院で行われた。約300人が参加した開所式には一般、援協関係者をはじめ、多くの国会・聖州議員、医療関係者らが出席した。あいさつで同市長の小田原ジョゼ氏は「市の輝ける歴史の一つになった」と開院を祝福。菊地会長は「日伯両国に貢献する一つのモデル病院として注目してもらいたい」と出席者に説明した。同病院の収容床は40床で、内・外科、婦人科、小児科の受診に対応。建坪は3191・45平方メートル。約1500万レアルの予算で、着工から1年3カ月で完成した。

乾杯で開所を喜ぶ関係者

「飛翔太鼓」の演奏で開所を祝う

晴天の下で行われた開所式には、来賓として連邦下院議員の安部順二氏、オリンピオ・ジョゼ氏、マルクス・ロドリゴ氏のほか、聖州議員の羽藤ジョージ氏、アマリ・ルシア・マリア氏、モラエス・ロドリゴ氏らが出席した。

コロニア・ピニャール日語モデル校の「飛翔太鼓」の演奏で開式し、日伯両国歌が両国、州、市、援協それぞれの旗掲揚と共に斉唱された。また開所にあたり、病院前の通りを元会長の故・竹中正氏を顕彰した「竹中通り（Rua Tadashi Takenaka）」と命名し、同市によって舗装された道路上で除幕式とテープカットが議員、関係者らによって執り行われた。

あいさつでは各出席議員、来賓らが祝辞。その中で印象的だったのがテレビ・バンデイランテスのコメンテーター、ミルトン・ネルス氏で、「（病院は）市民の協力なしにできるものではない。この低予算で完成できたのは、お金が抜かれなかったからだろう」と述べていた。

開所式後、病院内を来賓と一般来場者らに公開し、別会場で昼食会が行われ午後2時過ぎにすべての予定を終えた。

同病院から約20キロの場所に位置する同市のコロニア・ピニャールから参加した同地文化体育協会の貴田孝平会長は「受け付けにはピニャール出身者も居て身近に感じる。かつて援協は日本語しか分からない人が安心して利用できる病院としての存在だったが、それから2、3世と時代が変わり今も有り続けるのは信頼されている証しだと思う。この地に建設してくれたことに感謝したい」と感想を述べた。

また同婦人部会長の樋口節子さんは「今まで緊急の場合、イタペチニンガ、ソロカバまで行かなくてはならず、過去に搬送途中で亡くなった人もいると聞いている。病院は利用しないに越したことはないが病院が近くにあるとやっぱり安心」と答えた。

副会長の藤沢由美子さんは「一時は背の高い草が敷地を覆っていて本当にできるのか噂（うわさ）していたが、無事に完成してうれしい。今までは診療はリベルダーデまで足を延ばしていた。入院した際、窓を開けて自分の古里が眺められるとほっとする」と語り、出席した多くの人が「安心」という言葉を口にしていた。

人口3万人の同市では5年前まであったサンタ・カーザ病院が廃業して以来、市営救急診療所が今まで唯一の医療機関となっており、市民は早期の病院建設を望んでいた。

営業開始は15日午前7時から。今後、医療機器の搬入や緊急搬送の設備も整えていく予定。また数年かけて60床を増設し、計100床の受け入れ態勢を目指す計画だ。

A Beneficência Nipo-Brasileira de São Paulo Hospital São Miguel Arcanjo inaugurou o SUS – Sistema Único de Saúde, no dia 10, às 11h na própria sede. Para a cerimônia de abertura compareceram 300 pessoas. Dentre as autoridades convidadas esteve presente o Deputado Federal Junji Abe.